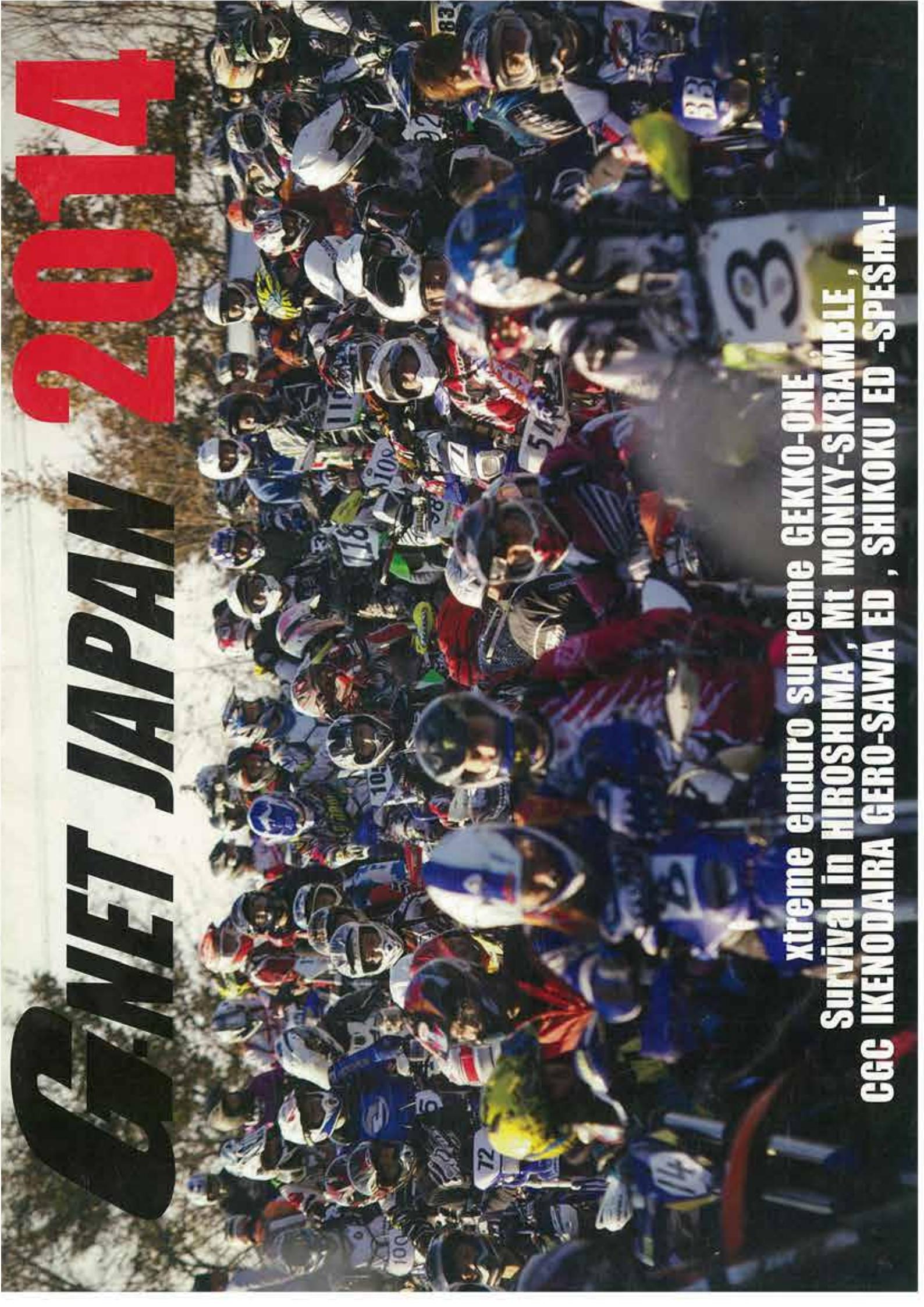


**GEKKO JAPAN 2014**



**Xtreme enduro supreme GEKKO-ONE  
Survival in HIROSHIMA, Mt MONKY-SKRAMBLE,  
CGC IKENODAIRA GERO-SAWA ED , SHIKOKU ED -SPESIAL-**

**Beta**  
the play bike

# REAL 2014 RR

## RR 2T 250・300

New Generation 2 Stroke Engine With Electric Starter

Made in Italy

希望小売価格  
RR 2T ¥1,050,000(税込) 保安部品付属、公道走行不可  
RR 2T ¥1,092,000(税込) 公道走行不可  
ツーリング用装備は付属しません。  
仕様: 電子制御、油圧、素材などは改良の為多く変更する場合があります。  
車体カラーは実物との色異なる場合があります。

Betamotor Japan 富山県南砺市新町7-4 TEL 0763-22-1731 FAX 0763-22-1732 betamotor.japan@gmail.com www.betamotor.jp ベータモーター 検索

**MOTUL DID GoldenTyre**

**KTM** ...FOR THE DUKE

**OFFROAD**

**KTM FUKUOKA**  
KTM正規ディーラーオレンジショップ  
[www.ktm-fukuoka.jp](http://www.ktm-fukuoka.jp)

**KTM 福岡**

【営業時間】  
10:00 ~ 19:00

【定休日】  
毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)

〒812-0863  
福岡市博多区金の隈2丁目19-10  
TEL 092-503-5337

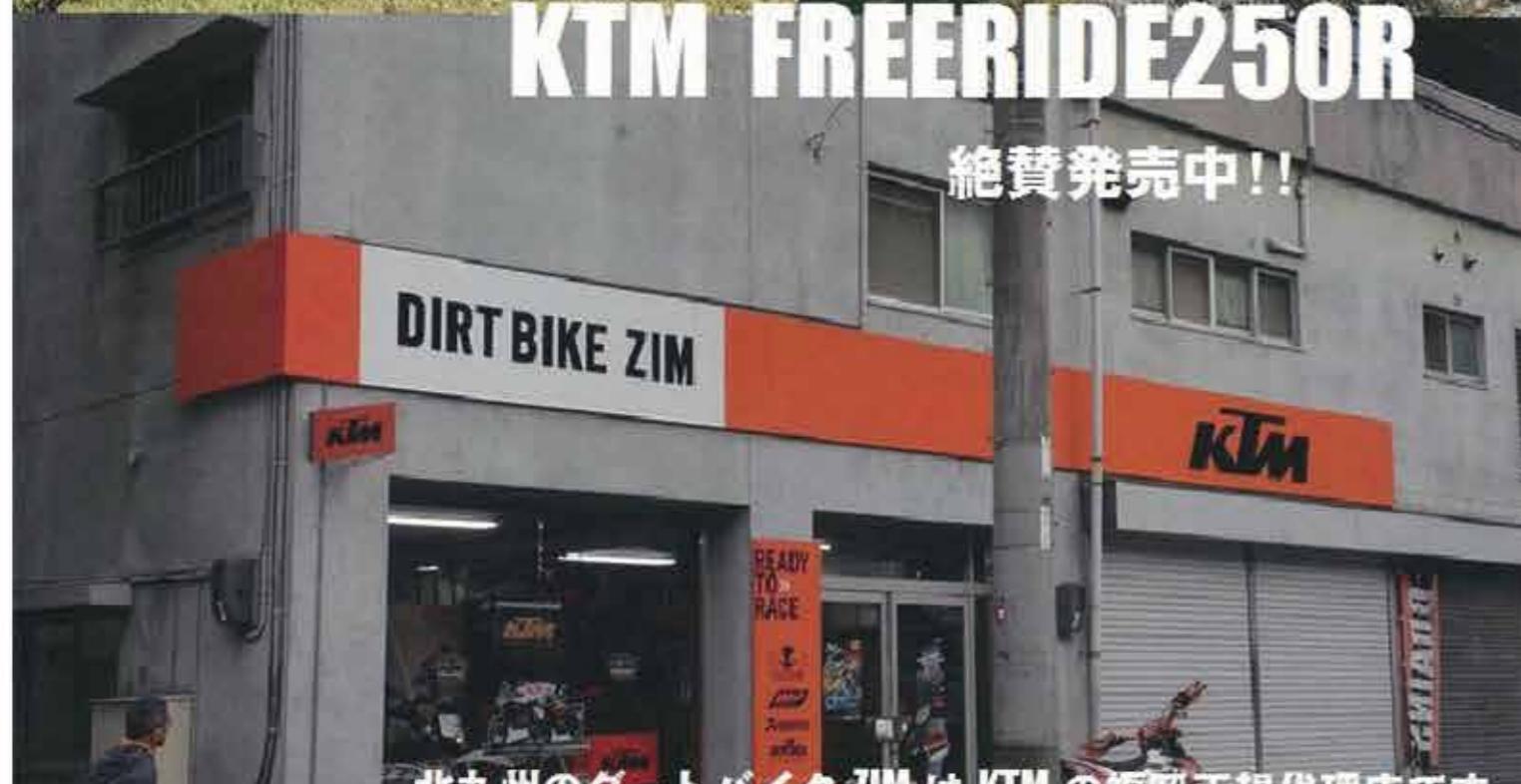
MADE IN AUSTRIA



Extreme Race 最強マシン

## KTM FREERIDE250R

絶賛発売中!!



北九州のダートバイク ZIM は KTM の福岡正規代理店です。  
エンデューロ、モトクロス、オフロードバイクなら

**DIRT BIKE ZIM**

<http://www.dirtbike-zim.com/>

**READY  
TO >>  
RACE™**

**KTM**



# G-NET JAPAN 2014



エンデューロとは、そのことを語る資格が、私にはあると思います。私に限らず、EDレース活動を続けている選手全てに、語る資格があるはずです。資格があるか、無いかの話をすれば、語るのは選手、ライダー側でなければならないからです。

なぜこのような話をするのか、それはレースの主役は、他ならぬ選手だからです。当たり前のことがですが、そうでないと感じたことはありませんか。レースの品格、方向性、位置づけ、コンセプト。そういうことを尊重するあまり、選手の存在は置き去りにされではありませんか。もちろん、主催者の意向は大切ですし、レースの性格も大切です。そして、どんなレースに出場するのかは、自由選択。選手が選び、出場し、そして楽しむ。非常に自然な流れです。子供がスーパーで好きなお菓子を選ぶのと同じ、ごく当たり前なことです。しかし、現状はどうでしょう。日本一を決める、日本のEDチャンピオンを決めるレースはこのルールでやる、この形式でやる。「EDとはこうあるべき」主催者側の意見は、レースに大きく反映してきます。嫌だったら、レースを選ばない、出なければいい。それが現実だから、仕方ないことでしょうか。

頂点のレースになればなるほど、公共性が強くなります。影響力が大きく、責任もあります。だからこそ、より選手の立場を、レースの方向性を見極める必要があるのではないかでしょう。嫌なら出なければいい、それで切り捨てて終われる話ではないはずです。大衆が一番求めているED、世界に通用する日本のED、それは一体何なのでしょう。果たして日本は、今後も現在のレース環境のままで行くのでしょうか。主催者が決めることが全て、ライダーはレースの為にお金を工面し、その合間に練習し、EDの為に生活を注ぎ込み、レースを一生懸命盛り上げる。なんか、レースの為に動いているような気がしませんか。レースって、一体誰の為に、何の為に開催されてるんでしょう。それが嫌なら、MXをすればいい、TRをすればいいのでしょうか。これが現実だから、仕方ないのでしょう。大きな流れに石ころを投げ込んだところで、何も変わりません。果たしてそうでしょうか、根本的な何かが違っていませんか。このことは、レース主催者に限らず、EDライダー側も、もっと真剣に考えるべきだと思います。一番大事なのは、レースなのか、選手なのか、そして現在のレース環境、将来について。

確かにEDは、他種目に比べて定義付けが難しい。ハイスピード性から、テクニカルな面まで。その競技性の幅広さが人気の幅、競技人口を増やしている反面、逆に統一性を困難としています。しかし、よく考えますと、統一しようとするとから難しいんじゃないでしょうか。色々なレースがある、いろんな経験ができる、だから楽しい。それも大切な日本EDの個性、だと思います。

世界基準、ISDE、GNCCに準じたレギュレーションであることは判ります。しかし、そんなに渋滞は問題でしょうか。セクションが、ヒルクライムが、ガレ場が、難所があることは問題でしょうか。そこから目を離せば、安定したレース運営ができるかもしれません、選手側はそれで満足しているのでしょうか。真のトップライダーは、どんなに荒れたコースでも、メチャクチャ速い。そのことは、トップライダーの皆様自身が、一番良く知っています。そして、その姿を間近で見ることで、エンタリーが増える、観客が増えるのは当然の流れだと思います。

昨年からシリーズ戦「G-NET JAPAN」として生まれ変わりました。私が始めたのではありません。ED界にニーズがあり、後押しされたから。私はその手伝いをしているだけです。うちのシリーズは、個性派だらけ。俗称「GERO」、難所だらけ、コースは泥だらけ、渋滞は多い、最悪です。お金を払ってまで苦労するのは何なのでしょう、私もそう思います。しかし、閒違いなく言えること、そこでは選手が主役、主催者はただの盛り立て役なのです。私は、こういったレースの中にこそ「日本EDという個性」を、感じることができます。

先に登場した、エルツベルグでの話です。コースの難易度はご承知のことあります。私が同じ位競いたのは、出場している選手のこと。本戦500名の中にすら、60過ぎの方から10代の若者、女性までもが出場し、当たり前のように強烈な斜度のヒルに挑み続いている。失敗し、マシンを投げ出して倒しがる。そして、自らが泥だらけになりながらも、マシンにロープを掛けて助ける観客。その後、私は思いました「これがEDだ」って。TRでも、MXでも、モトードでも、ラリーでもない、EDコースを征服した達成感、先に進めない屈辱、観客や選手同士の一体感、広大なロケーションを走破する開放感、その中で勝敗を競う競技「これがEDだ」って。日本もユーロ圏に負けない位のレース数、文化、EDに人生を捧げるライダーがたくさんいます。日本は、絶対にED大国です。世界大会、他の国競技を取り入れるのも大切ですが、日本のEDという個性を、まず大事にして欲しい。そして、そこで輝いているトップライダーをもっと大事にして欲しい。そうすれば自然とレースは盛り上がり、日本EDは強くなり、もっともっと良くなるはずだと思います。

頑張れ、日本のエンデューロ！

G-NET JAPAN事務局  
河津 浩二

**MTXR**  
BOOTS REPAIR & CUSTOM SERVICE  
**06-6955-0125**  
[info@mtxrepair.com](mailto:info@mtxrepair.com)



モーターサイクルスポーツやバイクで乗る人だけのモノ？  
いいえ、見る人や応援する人のモノもあるんじゃないでしょうか。  
ってのがボクらKRAZY（クレイジー）の考え方です。  
おなかの大きな女性も、泣あちゃんち。仕事柄バイクはいいけど  
バイク遊びやモーターサイクルスポーツはやめたい方がいいかも。  
ってひとも、こう考えることで仲間になれます。  
KRAZYは、モーターサイクルカルチャーの外側にいるひとも楽しめる  
情報を発信しています。バイクやモーターサイクルスポーツのツウ  
じゃなくとも楽しめる情報です。  
またこれがきっかけでバイクに乗ってくれたり、遊びやスポーツと  
して始めてもらったらもうっとうれしいです。  
KRAZYは無料マガジンとウェブマガジンで発信しています。正直  
言って今年G-NETの取材に行けるかどうかわからないのですが(汗)  
できるだけ紹介できるよう努力します。  
KRAZYを今後ともよろしくお願いします！  
あ、ウェブマガジンはkrazy web.com では毎日更新中っす。



**KRAZY**  
Free Magazine & Web Magazine / [krazy-web.com](http://krazy-web.com)



# G-NET JAPAN 2014 Top Rider

この写真を見ると、とてもトップランカーとは思えませんが…。いいんです、G-NET JAPANはそれだけ楽しいから盛り上がってます！

2013シーズンは最後まで接戦が続き、非常に盛り上がった年でした。ランキング争いも最終戦「四国スペシャル」までつれ込み、藤田貴敏、金子岳、大西実の3選手がタイトルを賭け、最後まで戦い抜きました。その状況下でも焦らず、ベースを乱さずに走りぬき、見事タイトルを奪取した藤田貴敏。長きに渡りハードレースで培ってきた勝負強さは、まだ健在でした。

ニューカマーも続々登場。橋本悠太、中野誠也、後藤英樹、以前からその実力は注目されていましたが、ようやく結果が伴ってきたようです。次世代GEROライダーとして、今年は暴風雨となり、オッサンライダーを演じて下さい。

又、固定ゼッケン枠を賭けた争いも、非常に僅差でした。実力的には「キングに最も近い男」と称されるロッシ高橋博も、全戦出場できなかった上、ペナルティにより一戦を流す結果となり、思うように事が進まないシーズンでした。同じくトライアル国際A級である森耕輔、第一戦を優勝で飾ったものの、後半は海外大会出場の為欠場が続き、年間ポイントは全く伸びません。そして、昨年エルツ出場を果たした河津浩二も、肩手術の為欠場が続き、最終の二戦のみで、どうにかポイントを集めました。

そしてシーズンを終えてみると、なんとこの3名が同一ポイントで横一線に並び、しかも、当年の最高順位も全く同じという。稀に見る状況。最終的には、前年度のランキングを考慮し固定ゼッケンを決定したものの、ここまで僅差とは誰も想像しなかった事でした。

固定ゼッケンのポイント争いだけではありません。昨シーズンの出場ラ

イター延べ人数は745名。これは、各レースがエントリー数を限定しており、締め切りを行ったことを考慮すると、さらにエントリー数は多かったことが予想されます。このことは、レースによってはエントリーが数日で終わり、CGCにあっては200名弱の出場枠が数時間で終了し、驚異的な人気であったことを裏付けています。このように、年間を通して非常に盛り上がり、様々な話題を提供してきたG-NET JAPAN。今年もシリーズ戦を追うライダーが増加することは、間違いありません。これだけハードな大会に出場するライダーが増加するということは、それだけライダーのレベルが向上しており、さらには国内EDのレベルも上がっているのではないか、と思われます。G-NET JAPANは、今年も参加ライダーの増加、認知度の拡大、そして日本EDのレベル向上の為、様々な活動を繰り広げたく思っております。是非、シリーズ戦へ参加してみて下さい。そして、是非固定ゼッケンを目指して下さい。貴方のレベル向上に繋がるはずです。

G-NET JAPANは、全てのレースを主催している訳ではありません。元々日本に点在していた個性派レースを、シリーズ化しているだけであります。各レースは各主催者により運営されています。だからこそ、様々な趣向の凝らされたコースがあり、だからこそ面白いのです。何も、シリーズ全戦を追いかけが必要はありません、まずは出場しやすそうな、面白そうな大会からでも構いません。そして、一生懸命準備して、レースでは思いっきり盛り上がって下さい。楽しんでこそ、エンデューロ！

## KING OF GERO

### #1 藤田 貴敏

TEAM 疾風怒濤+九州男塾

とうとう、この人が総合優勝する時がやってきました。何でも一番にならないと気が済まない男、「塾長」こと藤田貴敏。一度も優勝することなく、タイトルを奪取したシーズンでしたが、逆に言えば終始安定した成績であったからこそ、キングに成り得たのではないでしょうか。

元々、走破力にこだわったライディング、経験が豊富なだけに、この結果も当然といえば当然ですが、それだけにこだわり続けた結果優勝でした。

チャンピオンマシンのChristini AWDも又、この優勝に貢献した立役者です。非常に繊細なトラクションコントロールが求められるG-NETシリーズ戦において、フロントが駆動するのは理想的で魅力的なマシンなのかもしれません。特に最終戦「四国スペシャル」のタイヤ地獄セクションでは、「Fタイヤが引っ張り出してくれる」発言は、とても驚かされました。今シーズンも、様々なレースシーンにおいて、活躍すること間違いなしでしょう。

とにかく塾長、キングオブGEROおめでとうございます！トロフィーは全ての大会で、展示して、自慢して下さいね。



Tokyo Rindo Girls 東京裕道ガールズ  
<http://www.tokyorindogirls.com/blog/>  
裕道館までしてライダーに会ってやる。  
誰人にして最初のエンデューロブログ。



トップライダーが選ぶ、世界一のデカール  
田中タイチ選手、Erzbergrodeoマシンもデザイン。  
SUSIE DIGITS KYUSHU

### #2 金子 岳 ENJOYS

GERO KING は逃したもの。それでも最終戦までタイト争いを繰り広げ。総合2位という結果はやはり熟練の技。やさしい性格と流れるようなライディング、今やG-NETライダーの代表として、欠かせない存在であります。師匠、今年もシリーズを牽引して下さい。諸が師匠を超えて狙っていますから。

### #3 大西 実 Blue Wing 九州男塾 葛城組 Jimmytec

この位置が定着しつつある、関西GEROライダー代表Jimmy。『コラ～シミ～！』昨年も本人よりファイト姐さんの存在の大きさが取り沙汰されました。仕方ありません。あの存在感に勝てる人はまずいませんから。しかし、タイト争いを繰り広げた実力はホンモノ。今年も更なる結果を期待してますよ。

### #4 熊本 悠太 バイカーズベア with CFC

初登場で、ランキング4位。あの伝説のレース「美和」オ-ガ-ナ-イ-熊本さんの走りを引き継ぎ、開けっぴりの良さは間違いなく間違ったDNAを引き継いでいます。一発の走破力も定評ありますが、ここ一番の勝負強さが今年の課題かも。次世代ライダー代表として、今年は頼れます。

### #5 中野 誠也 九州男塾 葛城組 高石二輪レーシング Jerry's

みかけはチャライガ、根は真剣。真摯にGEROレースへ取り組むその姿勢も、ワザほど熱い。しかし、その熱心さで実力は急上昇。今後も必ずランキングを上げてくるでしょう。頭の中もGERO間違いないし！

### #6 後藤 英樹 RT168

数年前、彗星のごとくGEROレース界に現れた超新星。その勢いは留まることを知らず、昨年も弾けて頂きました。決してGERO系ではなかったチームRT168も、最近は道連れのようですね。人間、諦めが肝心ですから。

### #7 河津 浩二 team G-NET JAPAN

エルツ帰国後、調子に乗りすぎて入院。もう若くないんだから、引退か…とおもいや。しぶとく復活してきました。その生き様もまさに落ち武者！今年もGERO三昧で頑張ります！

### #8 ロッシ高橋博 レアルキップ with ENJOYS

HARDレース最強、セクション最強のTR国際A級ライダー。実力はホント反則モノ。観客をも圧倒する單麗なライディング、転倒したことなんて一度もナシ！ニューマシンで望む新たなシーズン。その姿勢からも本気度が伺えます。「最もキングに近い男」今年こそは頂点に立つのでしょうか。スタンディングの王者、ロッシ！

### #9 森 耕輔 モトプライムレーシング

昨年末は日本を夢中にさせてくれました、「ROOF OF AFRIKA」日本人初参加、情報の少ない中、完走はできませんでしたが、非常に健闘しました。元々世界で戦う実力は有していましたが、G-NET JAPANから世界のハードレースへ挑むという流れが、他のライダーへ影響してゆくことでしょう。彼は又、今年もりんげ宣言をしています。再びアフリカへ…。その為に、G-NET JAPANで技術を磨く、なんて素晴らしいことでしょう。皆さん、彼を全力で応援しましょう。目指せ、アフリカ完走！

## 【 2014 G-NET JAPAN SERIES 】

・第1戦 3/2 GEKKO-ONE

山口県下関市 フィールド幸楽トライアル場  
主催 G-net Japan <http://gekko-one.blogspot.jp/>

・第2戦 4/27 サバイバル IN 広島

広島県甲田町 テージャスランチ特設会場  
主催 SP忠雄広島 <http://www.sptadao.jp/>

・第3戦 10/19 マウントモンキースクランブル 福島県猪苗代町チーズナツツパーク

主催チーズナツツパーク <http://www.jcc.aizu.or.jp/cheet/index.htm>

・第4戦 11/16 CGC池の平ゲロゲロさわやかED 愛知県池の平ワンダーランド

主催 CGC実行委員会 <http://www.enduro.co.jp/>

・第5戦 12/7 四国エンデューロスペシャル 德島県美馬市 モーターランド美馬

主催キントウ <http://www2.netwave.or.jp/~korihey/index.html>

以上、G-NET JAPAN全5戦をよろしくお願い致します！

なお、詳しい内容につきましては、<http://www.gero-net.org/> を御覧下さい。

### G-NET JAPAN SERIES REGULATION

#### 「第一レギュレーション」

1 目的 走破系レースの素晴らしさを全てのオフロードライダーに伝えたい！ライバルと競争を競いつかせることで日本の走破を試される、そんな素晴らしい競技を日本中に伝えるためにG-NET JAPANは立ち上げました。この競技に興味のある全てのライダーの交流の場として全力で活動していきます。

2 競技規則 各主催者の定める競技規則に準じます。

3 調査外選手の扱いについて 各主催レースにおいて調査外選手が入賞圏内でゴールした場合においてもそれを含めた順位で計算しランキングを決定します。

4 ポイントについて 参合順位の走者数 上位20名に下記ポイントを付与します。

1位 25P 2位 22P 3位 20P 4位 18P 5位 16P 6位 15P 7位 14P 8位 13P 9位 12P 10位 11P 11位 10P 12位 9P 13位 8P 14位 7P 15位 6P 16位 5P

17位 4P 18位 3P 19位 2P 20位 1P CGC池の平については、10位の順位を対象とします。

5 「KING OF GERO」走行 該シーズン限り、全戦招待選手として扱う。各主催者のご理解のもと「KING OF GERO」を招待選手（エントリー料のみ無料）とします。又、全戦招待選手として走ら代わりに、出場する各大会の審査、エントリーライダーへの参加応募を全力でお願いします。（2014 KING OF GERO） 藤田 貴敏 福岡県 疾風怒濤九州男塾

6 年間シリーズ総合順位上位者へ 固定ゼッケンの付与 年間総走行距離上位者は固定ゼッケンを付与します。さらに翌年シリーズ全戦に出場できる権利を保証します。（これは、招待選手枠という意味ではありません。あくまで参加枠の確保です。）

・固定ゼッケン選手数 9名 固定ゼッケンの色 白ベースに白文字

・上位9位は後記の「7. 表記」に基づき選定されます。※この9名は、黒ベースに固定ゼッケンを付与され、レース中は他のライダーの白印、黒印、緑印として走行して頂きます。さらに、他のライダーと公平競争する為、全レースにおけるスタート方法は、直後尾スタートとします。なお、これらライダーに実力が劣れ、及び上位のライダーについても、本人の同意が得られれば直後尾スタートとします。

7 表記 年間総走行ポイントの最多走手を年間チャレンジ賞とします。同一ポイントの場合、第1位に当年の最高順位、同位であれば同数が上位の走手。第2位に当年の出場回数の多い走手。第3位に当年のランキング。第4位に牛馬の走手を上位とします。ここで並んで同位である走手については同位と定めます。年間チャレンジ賞は「KING OF GERO」の称号と「KING OF GEROトロフィー」を翌シーズン終了まで貸与します。2位以下の入賞者、及びシリーズを通過して候補した走手は、トロフィーおよび賞賛品を授与します。表彰式は、翌年の第1戦にて行う予定です。



# SURVIVAL in 広島

□レース名  
□日付  
□場所  
□主催

サバイバルin広島  
2013年3月3日  
広島県高田市 テージャスランチ  
SP忠男広島



エンジョイズ亀田選手の華麗なジャンプ！ ナイスファイト！



スタート直後、シナリオどおりの大混乱



遭難中ではなく、レース中です



バイクを投げたあとは…



え～と、どちら方向へ行くんですか

この悲しい姿、どうですか。すばらしいじゃないですか！

## ●G-NET JAPAN誕生

新たなシリーズ戦の幕開けとなりました、2013. そのシリーズ戦の名は「G-NET JAPAN」！何だ、ジャパンを付けただけじゃん、と思ったあなた。はい、確かにそのとおり。GEROなシリーズ戦を一生懸命やっているだけデス。もちろん変更点もありますよ、全国5カ所での開催拡大となりました。全国の熱い主催者が名乗りを上げてくれたのです。その主催者自身が又、個性の方だけ。地域の特色を生かした、楽しいシリーズ戦になること間違いなし！です。そんなシリーズ戦、徹底して全戦を追いかけるも良し。個性重視、気に入ったレースをスポット参戦するのも良し。楽しみ方は、あなた次第。

又、統一ルールもできました。「腹黒固定ゼッケン」の復活。WONET時代から引き継がれた黒ベースの固定ゼッケン、その年間ランキング上位者は全戦を最後尾からスタートします。TV番組「逃走者」と一緒に、後から「ハンター」が追いかけてくる訳です。

それでは早速、第1戦「広サバ」の悲しい出来事についてお話ししましょうか。

## ●迷宮の子羊たち

という訳で、今年のコースも一段と気合い入ってます、「サバイバルin広島」。テージャスの密林に次々と現れるアトラクション、まさにGEROのテーマパーク。ウツキヤンパーをベースとしたコースは、方向感覚、三半規管を狂わせて、暗黒の渦へと引きずり込まれるようです。

G-NET JAPAN 2013  
Round-1



もっとマテを、マディでないと面白くない！ K猫師匠、楽勝で脱出。



常に攻めの姿勢、5D前田っち。

IA対決、今回は森選手に軍配が！



森耕輔、藤田貴敏、ロッシ高橋博。最終ラップまで順位争いがもつれ込む、壮絶な大会となりました。



一斉スタートならず！



早く逃げて！ 早く！

| 【リザルト】上位6名 |                              |
|------------|------------------------------|
| <b>優勝</b>  | 森 耕輔 YZ250F モトプライムレーシング      |
| 2位         | 藤田 貴敏 CHRISTINI 疾風怒濤         |
| 3位         | 高橋 博 ハスクTE250 レアルエキップ&エンショイズ |
| 4位         | 熊本 悠太 YZ250F バイカースペア         |
| 5位         | 前田 啓介 TM125 5D               |
| 6位         | 重村 季司 KTM300 チームシゲムラ         |

マディ状のコースも次第に乾き始め、TRライダーのグリップ走行にも速さが戻り始めました。そうなると、森選手の独走状態、もう誰も止められません、やはりIAは強かった。その後もペースを落とすことなく逃げ、最終的に2位と12分差を開けてのチェックマークでした。後輪はFIMタイヤにムースと、不利ながらも自らのスタイルを貫き、完全勝利を果たした森選手。その実力は、まさにモンスター級。今年は、もしや全戦ぶっちぎるおつもりですか。

2位は、順当な走りで熊本悠太選手がゴール…するかに思えましたが、なんと整長、最後の最後で躊躇張りました。最終周の「二段坂」で悠太選手を追い詰め、再逆転して整長藤田選手が2位に。3位は、IAの意地が炸裂、悠太選手をパスした後、藤田選手との差を一分まで詰めました「ロッシ高橋」選手。そして結局体力が続かず、4位まで落ちてしまったのは熊本悠太選手。残念、もっと体力と経験を積んでGEROキングを目指して下さい。5位は、第2グループとは若干差が開きましたが、終始安定した順位なのはサスガです、常勝常連#91tm125「マエダツチ」前田啓介選手。6位は、こちらも常連GEROライダー、若手はもっと頑張って下さいよ#51KT M300xcw重村孝司選手。以上が入賞者でした。

結局トップの周回が5周、完走率7%と、後半路面が良くなつたものの、予想どおりの厳しいレースとなり、G-NET JAPAN開幕戦の大役を無事果たして頂きました！皆さん、G-NET JAPANを嫌いにならないで下さい。そして今後の大注目は、今年はG-NET JAPAN全戦参戦を表明している森選手。ホントに全戦ぶっちぎるおつもりですか？やはり最終目標は、あのエルソの頂きなのでしょうか…。開幕戦から絶対的な実力での勝利でした。そして、他にも逆転を狙う整長、ロッシ、注目選手が目白押し。今年もG-NET JAPANから目が離せませんねシリーズ戦の模様は、G-NETHP <http://www.gero-net.org/> をご確認下さい。

この暗黒の渦のことを、今では「広島Style」と呼ぶそうですね、オシャレに。とにかく、右へ左へと全く先の読めないコースの取り回しに、下見無しでレースに出場することは自殺行為。「レースは下見から始まっている」とは、ここでは常識です。選手ははいたい、前日は気合いの下見服。早速コースに入ってラインの確認を…といきいや、これが又なかなかのセクションばかり！ですから、立ち止まる回数も次第に増え、結果下見の時間が全く足りません。「えっ？みっちり6時間は歩きましたよ」とは、GEROキングの金子さん、ロッシさん等の愛知ENJOYS御一行のお言葉でした。3時間のレースの為に下見が6時間、それでおかしくないですか？もちろんおかしくありません、勝つためには必要なことです。

## ●二輪駆動の逆襲

そういった訳で、今年も広サバ物語の始まり、始まり。まずは、広サバ名物「一齊スタート」…といきや、今回はコースの事情で5台づつの静かなスタート。その時、旗黒ゼッケンの皆様は「いつ」と、最後尾で全員のスタートを指をくわえて見ています。大丈夫です、巧みな「置」でスタート順なんかすぐに関係なりますから。まずはスタート直後の「イキナリスタート」で、とりあえず転倒。次なる溝越えは、でかい溝を飛ぶのか、エスケープでかわすのか。どちらにしても「ベチャベチャのキャンバーフープス」で大波瀾、大混乱。やっぱりスタート順なんか関係なくなりました。

一周目、トップライダーはなんと#15「チームシゲムラ補欠」の関選手！まさかのダークホースか…といきや、たった半周で夢破れたり。テージャス山横の一本ラインで撃沈、後続から踏まれ踏まれ、腐葉土のモクズと消えてゆきました。シゲムラ師匠、鍛え直してやって下さい。

コースでは、既に至る所で悲しい物語が始まっていました。特に悲劇的な舞台は、よくもこの角度のヒルを作りましたね「テージャス山ヒル」。途中でマクリれる方の心労をお察しします。そして、ハンドルにやら木がまとわりつく、無伐採の「イライラの森」、いやいや、全く乗って降りられない「激下り」も強烈。そんな風に、よくもまあ34人の迷所を作りましたよ、主催者スギノ父さん、尊敬を通り越して、みんな呆れてますよ。

そんな混乱する戦場を、重戦車さながらにゆっくりと進むのは、二輪駆動クリスティー二AWDを投入した#17「塾長」藤田選手。持ち前のクラッチをイワセル全開走行を封印、フロントを浮かせないようバタバタと移動する「AWD走行」です。一見地味ですが、他の選手が異のようセクションでミスを続ける中、その淡々とした走りが大成功。レースは序盤から塾長が先頭、それを追いかける第2グループ、という構図となりました。マシンセッティングも今日はバッタリ、ギャラリーに「負ける気がしないよ」と上機嫌で叫ぶ余裕の塾長です。しかし、その背後には第2グループが迫っていますよ。果たして、最後まで逃げ切れるのでしょうか、塾長！？

## ●モンスター登場

どういった訳か、レース後半、大口の塾長も徐々にペースが落ちはじめました。「待てました！」と、そこに襲いかかるのは#75YZ250F森耕輔選手。すば抜けたTRテクニックとAAライダーの速さ兼ね備えた、反則のような選手です。続いて、#13YZ250F熊本悠太選手、#7ハスクTC「ロッシ」高橋選手。この第2グループの追い上げにより、レースは第2局面へ以降します。

# Mt.MONKY SKRAMBIE

G-NET JAPAN 2013  
Round-2

□レース名 マウントモンキースクランブル  
□日付 2013年5月12日  
□場所 福島県猪苗代町 チーズナツツパーク  
□主催 チーズナツツパーク



お見事!taoさん! この状態からケガをしない、その身体能力が凄い!

## ●復興の証

今年の東北は、4月中旬まで降雪がありました。ですので、本格的なコース作成は連休に入ってからだったとか。スタッフの皆さん、準備はさぞ大変だったことでしょう。レース前日、猪苗代の景色は、まだ初春の装い。会場の空気も又、冷ややかな雪解けの香りが残っていました。

春うらら、チーズナツツパーク。EDライダーなら誰しも耳にします、著名なコースです。磐越道からのアクセスも良く、年間を通じ様々なイベントが開催されています。TR、フリースタイルイベント、JEC、そして8耐。様々なイベントに対応できるマルチなコースでは、これまで毎年開催を続けてきたレースがありました。東北の定番ED「マウントモンキースクランブル」。震災と原発事故の影響で、2年間の会場閉鎖を乗り越え、今回ようやく復活となりました。

思い起こせば昨年末、主催の小松さんからこんな連絡を頂きました「うちも、激しいのをやりますよ」。この力強い言葉の裏には、復興とか、そういうことを意識した感じはありませんでした。やりたいレースをやる、国内でも有数の難易度で開催できるという自信に満ちあふれていました。さあ、モンスク復活劇の、始まり、始まります。

## ●募集要項

出場条件は「折れない心を持った方」。内容の説明は「これまでのモンスクよりも、難しいコースです」と、不思議な解説で始まった今回のモンスク。さらに、当初は「予選で勝ち抜いた方のみ、決勝に進めます」と、新レギュレーションを発表したことが原因だったのでしょうか、エントリーは40名と少なめでした。

しかし、この贅沢な顔ぶれを見ると、人気低迷どころかレベルの高さに大きな期待が持てるはずです。全日本組からは池田智泰、近藤ユウスケ、AD tac、森耕輔各選手、そして現役バリバリドライバー三橋淳選手



日本を牛耳る3人のショット。  
そして、果敢に攻めるこのガッツ!⇒



Mt.MONKY[猿山]…  
レース名のとおり、一番の見所。  
ギャラリーも観戦しやすく、とても盛り上がりましたが、当のライダーはタイヘンでした!



これが御柱ヒル! モンスク限定の、トップライダーも恐れる最強のヒルです。



「ヒルクライムなんて、どこかに  
ありました?」イシゲさんの優勝コメントは名言でしたね。復帰待ってます!

ホント、参加選手の多い大会でした

| 【リザルト】上位6名 |                                |
|------------|--------------------------------|
| 優勝 池田 智泰   | KTM450EXCR                     |
| 2位 藤田 貴敏   | KTMうず潮レーシング福山                  |
| 3位 森 耕輔    | YZ250F モトフライムレーシング             |
| 4位 和泉 拓    | Beta RR2T TeamBetaスレッジ E-9-サーキ |
| 5位 金子 勝    | KTM250EXC sng+enjoys+jerry's   |
| 6位 三橋 淳樹   | gas ec250f RT168               |

そんなこんなでモンスク、たっぷり3時間堪能して頂き、ようやくチェックとなりました。結局この強烈なレースを制したのは、やはりこの男でした#13イシゲ池田智泰選手! 序盤から一気に差を開いた圧倒的速さ、数々の難所でもピックマシンを丁寧に扱う超テクニック。「後半の御柱は、ガツツボーズしながら登ってましたよ」(目撃スタッフ談)と、驚異的な走りを見せつけられました。優勝コメントは「ヒルクライムなんてありました?」、当分はターゲットとなりそうです。

2位は、ここまで追い上げましたが、二駆のセッティングはかなり上位のようですね、#29整長藤田選手。3位は…なんと森耕輔選手。御柱でムークスが全く歯が立たず、序盤で戦線離脱となっていましたが…。イシゲ選手より3分も早い周回タイムを叩き出し、後半の驚異的な追い上げは健在です。4位は、#16AD tac和泉選手。当初2位で周回していましたが「墜ちはいけないところに墜ちました」。マシン前部の損傷からも、レースの厳しさが伺えます。5位は、さすがのキングオブGERO、#1金子師匠。taoさんと対照的な地球に優しい走りで、デッドヒートを繰り広げました。以上、入賞者でした。

数々の伝説を生んだ、今回のモンスク。結局一周できなかった方は、13名という壮絶な結果でした。そして、日本ED界に一矢を報いたことは、間違いません。コースのキャバ的にも、今後エントリーは充分増やせそうです。次回開催が楽しみですね!

そしてもう一つ、今回走行率が8割超えだったIRC。イシゲ選手のGEKKO TAで優勝も追い風となり、その威力を立証する形となりました。今後のED、あなたのタイヤチョイスも気になりますね。来年、このタイヤを生かした超ハイードGEKKO-ONE!が開催予定、ご期待ください!!

G-NET JAPAN、次なるステージは…。来ました、あのウズファイター「琴引MEDJ」。あなたの新たな冒険、応援しています、G-NET! <http://www.gero-net.org/>

手、迎え撃つGEROライダーは塾長藤田選手を始めとするG-NETトップライダー。ライダー達は、まさに頂上決戦の様相となりました。「今回のモンスク、かなりヤバいらしいよ」その噂を聞いた上でのエントリーだったのでしょうか。トップライダーに限らず、今回出場した方は全て、間近いなくヘンタイです。そんなヘンタイ集団を唸らせるほど、今回のコースは素晴らしい出来映え。下見の時点で「俺、ここまで来るだろ?」という独り言を、よく耳にしました。

そして大会前夜、会場はなんと祝福の豪雨! 私のテントも見事に水没するほどの雨、でした〔涙〕。ホント降りすぎです、コースは大丈夫?

## ●御柱【オンパシラ】のたたり?

コースが超マディだろうと不安だろうと、選手の気持ちに関係なくレースは始まります。全車一斉スタート、広場からアクセラ全開です!…の直後、いきなりのアクセル全開! スタート直後、新設ウップの段々坂が、登らない、登らない! 助走の短い段登りと、降り積もった腐葉土がグリップを奪い、渋滞の至る所でマシンが乱舞、大混亂です。レースはまだ始まったばかり、いきなりのお祭り騒ぎとなりました。

それでもトップグループの皆様は、頑張ってコースを進みます。いっぱい

水を含んだお山、バチンコ坂下り、沢登り、超キャンバーと、ヤバそうなセクションをこなして走り、さすがに巧い! しかし、この場所だけはラベルが違いました。そのセクションの名は、「スーパー御柱」。巨木が幾本もそびえ立つ、50メートルほどのウップ登りです。ここにコーステーブルはありません。見渡す場所を、とにかく登れば良いのです…登れるのなら! 登ってみやがれ的に立ちはだかるこのヒルクライム、滑る腐葉土と斜面のうねりで全く登らない、登らない、登らない! トップライダーも何度も跳ね返されます。

勝負の分かれ目となったこの場所を、最初に登頂したのは#13KTM450EXCR「イシゲ」池田智泰選手。パワーを生かして、一気に駆け上りました。続きますのは、さすがの#16BetaRR2T「AD tac」和泉選手。そして、#220RF250R中野マサル選手、#1KTM250exc「K猫」金子師匠、#30KTM250xc「Bigman」栗木選手。しかし、度重なるアタックで若干登りやすくなったりの、難易度は依然健在。次に登頂するのは誰…と待っていますと、なんとなんとのイシゲ選手。皆さんがオンパシラ足止め中に周回、2度目の登頂なのです。スタート40分程ではほぼ全員をラップしてしまった、450フルパワーのイシゲ選手。チエッカまでその勢いで逝ってしまうのですか!

## ●御柱【オンパシラ】のたたり?

数々の名所の中で超インパクトだったのが、周回チェック直後に登場する「猿山」セクション。魅せるための演出なのか、ただの公開処刑なのか、ここでギャラリーはかなり盛り上がり上がっちゃいました。その厳しさの原因は、助走。高さ20メートルほどの急斜面を登るのに、助走はその1/3程度。選手の皆さん、コーステーブルのギリまでマシンを下げて、祈りながらのアタックです。途中発射することになると、マシンが上がってしまえば登頂、落ちるヨリマシです。周回の疲れも影響し、トップライダーですら失敗を期す見所満載のセクションでした。

しかしライダー的に一番泣きが入った所は、「超キャンバー」。角度のきついウップキャンバーは、ちょっとアッセスを開けただけアリが落ちる、という悲しさ。地味ながら、体力が消耗した状態で全く気が抜けません。ここで威力を発揮したのが#29Chrisutini「塾長」藤田選手のAWD。駆動する前輪は、ゴリゴリ走ります。御柱で大きく出遅れた塾長、後半はAWDで驚異的な追い上げを見せつけました。

オートバイ用品店  
『ナップス』



# ナップスは全国の オフロードユーザーを 応援しています！

オフロードユーザーが減少していることもあってか、現在オフロード用品を取り扱うオートバイ用品店やオートバイショップが激減しています。

私達ナップスはこれからも継続してオフロード用品コーナーを維持・展開していく事をお約束致します。こんなに楽しく、お洒落で、かっこいいカテゴリーをお店の中から無くしてしまうなんて勿体無くて考えられません。

全国のオフロードユーザーの皆様！今後共ナップスグループ全店を宜しくお願い致します。

## オフロード用品のことなら当店へ！



### 【ナップス横浜店】

住所：神奈川県横浜市  
戸塚区東俣野町 1009  
電話：045-853-1171  
定休日：年中無休



### 【ナップス足立店】

住所：東京都足立区  
綾瀬 7-2-17  
電話：03-5613-0171  
定休日：年中無休



### 【ナップス浜松店】

住所：静岡県浜松市  
東区原島町 525  
電話：053-411-1170  
定休日：毎週水曜定休  
※キャンペーン・セール開催中は営業



### 【ナップス埼玉店】

住所：埼玉県桶川市  
末広 1-1-42  
電話：048-778-3117  
定休日：年中無休



### 【ナップス三鷹東八店】

住所：東京都三鷹市  
野崎 1-19-12  
電話：0422-40-6171  
定休日：年中無休



### 【ナップス福岡店】

住所：福岡県福岡市  
南区野間 4-21-1  
電話：092-557-1555  
定休日：毎週水曜定休  
※キャンペーン・セール開催中は営業



### 【ナップス名古屋店】

住所：愛知県名古屋市  
中村区名駅 1-1-1  
電話：052-221-1170  
定休日：毎週水曜定休  
※キャンペーン・セール開催中は営業

## お近くのナップスへGO！

□ナップス横浜店 045-853-1171  
□ナップススペイサイド幸浦店 045-790-1175

□ナップス港北店

045-942-1171

□ナップス相模原店

042-754-1171

□ナップス伊勢原店

0463-92-1171

□ナップス練馬店

03-5905-1171

□ナップス足立店

03-5613-0171

□ナップス世田谷店

03-5727-1171

□ナップス三鷹東八店

0422-40-6171

□ナップス埼玉店

048-778-3117

□ナップス広島店

082-297-8951

□ナップス浜松店

053-411-1170

□ナップス前橋店

027-230-1189

□ナップス福岡店

092-557-1555

# 琴引 MOUNTAIN ED

G-NET JAPAN第3戦「琴引マウンテンED」レポート

- 日時 平成25年10月13日
- 場所 島根県飯南町 琴引フォレストパーク 特設会場
- 主催 琴引MED実行委員



斜度がハンパないッスね、斜度が！



あの～、誰の進行方向が一番正しいんですか…

絶好調塾長、今回も2位入賞



この、ターンしながらの登りが、難しいんですよ



焦ると、こうなっちゃいますから

・天気も頑張る

今年の台風はスゴイ！なにやら南方の海水温が高いらしく、ボコボコ発生しては日本に向かってきます。2個や3個の同時発生はあたり前。台風のミサイル攻撃を受けているかのような、日本列島です。このレースが開催された時も、台風攻撃の合間に縫っての3連休でした。爽やかな秋晴れの中、日本一のウツを舞台に開催されました。今、大人気のレース「琴引MED」。まあ、エントラントの皆さん、台風に伴う大雨で、グチャグチャドロドロになることを望んでいたでしょうけど。

今回のエントリーはなんと235台！個性派レースに、よくもまあこんなに集まりました。ある意味、中国地方で発生した、強烈な台風のようです。何故にこれだけの人気があるのか、詳しく解説して行きましょう。

・セクションで頑張る

ご存じ琴引のコースは、スキー場のゲレンデと、それを取り巻く広大なウツで構成されています。コース幅が広くて、セクションに入る助走も広くて良心的、コースの取り回しに起因する渋滞も一切ナシ。数々の個性的なセク

G-NET JAPAN 2013  
Round-3



いいね～絶好調、乗れてます熊本悠太選手



こちらも上り調子、後藤英樹選手



まるで蟻地獄。見た目では、どっちに進んでるのか、全然わかりません。



いいね～絶好調、乗れてます熊本悠太選手 こちらも上り調子、後藤英樹選手



| 【リザルト】上位6名   |                        |
|--------------|------------------------|
| <b>優勝 森光</b> | 昌哉 CRF250X 岡山天びら鍵      |
| 2位 藤田 貴敏     | christiniAWD 疾風怒濤      |
| 3位 熊本 悠太     | YZ250F ハイカースペアwith CFC |
| 4位 後藤 英樹     | Gas250F RT168          |
| 5位 前田 啓介     | TN125ED 5D             |
| 6位 中野 誠也     | CR250R 萩城組 高石二輪レーシング   |

・最後は、ベテランが頑張る

そんなこんなで、とうとう最終周までトップが解らない、異例の混戦模様となりました。一体誰が勝つの？ そして迎えた7周目、トップでゴールに姿を現したのは、なんと#69CRF250X森光昌哉選手。最終周までもつれた異例の混戦を制したのは、往年の大ベテランでした。元T.R国際A

級の走りは、今でも常にスマーズ。数年前、山口のED大会で膝を骨折。

レース復帰は困難かと思いつか。去年に続き2年連続の琴引優勝！ これだけ

のレースで2度優勝とは、尋常でないライダーですよ、森光さん。

続いて2位は、#103ChristiniAWD「塾長」藤田選手。途中、落ちるだけ落ちた崖落ち、リタイヤの危機かと思われました。しかし、今回もコギブリ並の生命力

が炸裂、ここまで追いかけてきました。2位のセッティングは上のようす。

3位は#97熊本ユータ選手。4位は#88「ごっちゃん」後藤選手と、若手の頑張り今一歩及ばず、残念。しかし、今回でかなり経験値は上がったはず。

愈りることなく、今後もどんどん激しいレースに参加して下さい。

5位は#55「5D」前田選手、優勝が見えていたものの、こちらも一歩及ばず。6位は#22中野まさる選手、7位#303ジミー大西選手、8位#301GERO

キング金子選手と、いつもの面々が続きます。今回、G-NET 固定ゼッケンは300番台最後尾スタートでした。そのハンディが結果に響いたのでしょうか。

以上、上位リザルトでした。

優勝の森光選手、表彰式にて「今度で引退します」と宣言したそうです。しかし、その失敗しない流れのような走り、まだまだ引退できないようですね。皆、森光さんの首を狙ってますから。来年もよろしくお願いします。必ず！

次回G-NET JAPANは、第4戦OGOいのだいら。超豪華なエントリーライダー、この頂上決戦は必ずED史に残るはずです。あの田中太一が、鈴木健二が、マクレバの姿、押しの姿と、そんな恥ずかしい姿見せるハズがありません。三段ヒルなんて、下から一発ですよ、一気越えですよ。これは観ないと損しますよ！ こうご期待！

ション、それをつなぐコースが巧妙、周回コース全てが楽しめる設定なのです。まさにこれが「広島Style」。琴引大人気の理由なのです。魅力的なセクションも人気です。まず有名なのが「でっかい丸太」。横たわる大柱。腰ほどの高さもあるこの丸太は、なかなか危険なステアで、焦って開けすぎるとマクレ。勢い余ると前転してしまうという難しさ。マシンを抱える方、投げる方と、様々な人間模様が観察出来る場所もあります。ここはこれまで、スタート直後のふるい落とし的存在でしたが、今回はレース後半に登場。大きな混乱もありませんでしたから。今回は皆さん、落ちていて越えられたようです（？）。

そして琴引といえば、ウツのヒル。そこら中がウツの斜面ですから、スタッフも作りたいだけ作れる有様。今年一番人気だったヒルは「ビックウエーブ」でしょうか。ネーミングの由来は、そのトンガリ具合。なかなかの斜度を登り詰めた向こう側が、なんとすぐに急降下。つまり、アクセルが足りなかったら手前に落ちますし、勢いがありすぎるとタイヘンなことになります。

そして琴引といえば、ウツのヒル。そこら中がウツの斜面ですから、スタッフも作りたいだけ作れる有様。今年一番人気だったヒルは「ビックウエーブ」でしょうか。ネーミングの由来は、そのトンガリ具合。なかなかの斜度を登り詰めた向こう側が、なんとすぐに急降下。つまり、アクセルが足りなかったら手前に落ちますし、勢いがありすぎるとタイヘンなことになります。

この大波を越えるアクセルワーク具合が難しく、ここで波乗りを充分に堪能されたライダーが多いようでした。

他にも、「2周目ヒル」や、「天空のヒル」等、個性的なヒルが一杯。さすがはG E R Oのテーマパークと呼ばれる琴引でありました。

・若手も頑張る

グレンデー気登りスタートで、今年も幕開けとなりました「琴引MED」。10台づつながら、流れるように次々とスタートが始まります。

一周目は大した渋滞、混乱も無く、レースはスムーズに進行します。まず一周目トップでチェックを受けたのは、さすがの貴様#55tm125ed「5D」前田啓介選手。必ずトップ争いに絡む彼、そのウツの速さは尋常ではありません。このままレースの牽引役となるのでしょうか。と思いつか、後続ライダーも黙っていません。その中で一際アグレッシブ、貪欲に上位の狙うライダーが2人。G-NET が誇る若手ライダー、#97YZZ50F熊本ユータ選手、#88GASEC250F「ごっちゃん」後藤英樹選手です。トップ争いに食い込み、優勝を射程距離に置き、攻め続けます。

しかし、今年はコースコンディションが良い状態。セクションでのワンミスで、順位がどんどん入れ替わる、という混戦状態が続くのでした。もう誰が勝ってもおかしくない。今年の琴引、栄光のチェックマークは一体誰なの？

# CGC池ノ平 ゲロゲロさわやかED

G-NET JAPAN 2013  
Round-4

◆レース名 2013いけのだいらゲロさわED  
◆日時 平成25年1月17日  
◆場所 愛知県豊田市池の平ワンダーランド  
◆主催 CGC実行委員会

◆photo: So4



壮絶！「ダートフリークヒル」。今年は、さわやか、ゲロゲロ、両クラス共に戦場と化しました。スタッフの皆様、ホントお疲れ様でした。



名前だけの「さわやか」クラス

GEKKOTA装着率。ハンパナイス。

ゲロゲロ、強烈でした。ギャラリーが一番盛り上がってます

■これが頂上決戦  
遠く木曽山脈を望む山々は紅葉に色づき、池の平の大地に電柱が張り始める、この季節。今年もやってきましたよ、今や国内最大級のGEROGERO大会が！ 今年のエントリー定員は、さわやか、ゲロゲロ両クラス合わせて200名弱。でも毎年一日たらずでエントリー終了しちゃうので、今年も気をつけないと…と思いまして。今日はなんと1時間経たずして定員OVER！なんちゅう人気ぶり。ほんとコンサートチケットの予約並になってきました。不幸にも間に合わなかった方々、タイヘン申し訳ありません。なお、G-NETシリーズ固定セッケンになりますと、安定して枠を確保できます。是非がんばって下さい。かくして決定した今回のエントリー。早速リストを見ますと、鈴木健二、矢野カズト、石戸屋蓮…。今年大活躍のJNCCライダーが…どうしたんですか。何かの間違い？脅威？ウィルスで無理矢理エントリーの自動送信させたとか…？何にしても、いかにCGC人気が加熱しているのか、その象徴だと思われます。残念なことに、当初参加を表明していた日本のエクストリーム第一人者「田中太一」選手でしたが、急遽のアメリカ行きでキャンセルとなりました。非常に残念。次回こそ、その強烈な走りを見せつけて下さい。

■挑戦的なコース  
人気が出ればフレッシャーもタイヘンです。主催者の藤江さん。そこは、これまでにない「挑戦的なコース」作戦で、迎え撃つとのこと。まあ、

これまでも充分挑戦的だとは思いますが。しかし今回は、大人気の競戦スポット「ロケット発射台」三段ヒル、どころの話ではありません。注目のセクションは、コース最深のウツ斜面に新設された、「クマモンヒル」。何故アイチでクマモン？そこは不明ですが、このヒルクライム、斜度がきつい上にやたら長い。レース中も、ここでの大半の時間を過ごしたライダーは、少なくないはず。新設といえば、新しい沢「ゲコタリバ」も素晴らしい。逃げようがない沢の溝を延々と走った最後には、高さ1.2メートルのダム型ステアが立ちちだかります。めまいがするようなセクション群。最後に、CGC公認キャラ「ゲロッピー」が、こう言っています「おまいら、かかってこいや～」。なんちゅうゆるキャラ！踏みづぶされないよう気をつけなさい。

■その名は「ダートフリークヒル」  
先行して行われた「さわやかクラス」の90分。このクラスもさわやかのは名前だけ、毎年必ず何かが勃発します。今回も、罪のないさわやかライダーを、マディの大量虐殺が始まりました。その現場の名は「ダートフリークヒル」。もちろんメーカーさんには、何の罪もありません。たまたま名前の場所が、ヘンタイだっただけです。段々登りの段々部分がマディとなっているこのセクション（ややこしいつまりマディだらけ）。唯一のワタチ登りラインが厳しくなると、ライダーは他のラインを探して次々に泥没。現場は大混乱となりました。この現



「GERO」女子



「GERO」女子

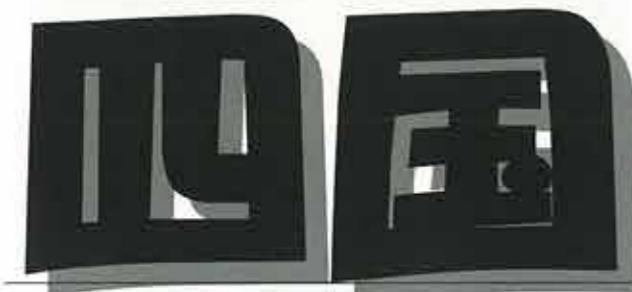
| [リザルト] 上位6名 |                                |
|-------------|--------------------------------|
| <b>優勝</b>   | 河津浩二 KTM300 G-NET JAPAN        |
| 2位          | 大西 実 TE250 Blue Wing 九州男塾      |
| 3位          | 金子 岳 KTM250 SNG                |
| 4位          | 熊本 悠太 YZ250F ハイカーズヘアwithCFC    |
| 5位          | 矢野 和都 KTM350EXCF タトヌ・アート&KTM中野 |
| 6位          | 後藤 英樹 EC250F RT168             |

場を乗り切った10名が結局3回目のチェックを受け、入賞ライダーとなつたのでした。ここで一句。さわやかなつわものどもが夢の跡。この、掘りたくったセクションは、ゲロゲロクラスでもそのまま使用されるとのこと。スタート前からイヤな予感満載です。かくして始まりました、ダウンタウンの駄菓子ゲームのような、ゲロゲロのスタートです。まずは三段ヒル。今年は以外にグリップもよく、ライダーは次々に問題の場所へと進みます。そう「ダートフリークヒル」へ。その光景は、ウェブ上にもう凄惨な状況がUPされていますとおり、それはもう飛び交う泥。マシン、泥。まさにCGC、という世界が繰り広げられました。ここをいち早く乗り越え、コンスタントに先頭へ立ったのは、やはりこの男#7ハスクSC250改「ロッシ」高橋博選手。G-NET一桁ゼッケン組が悲運にそれを追いますが、「クマモン」ヒルを一度も失敗せず確実に直登する。ロッシの正確な走りに追いつけません。さすがTR国際A級、このまま逃げ切ってしまうのでしょうか。

■意地vs意地

混乱の前半戦を折り返し、先頭は以前#7ロッシ高橋選手のまま。その華麗な走りを妨害するよう現れたのは、なんと私め河津。久々の登場で戸惑いながらも、ピットで一気にロッシを捕獲。いつもの「泥棒猫」作戦でひたすら逃げ続けます。しかしロッシの追い上げ速し、絶対に諦めません。追いついて抜き、そして又抜かれ。GEROレースにして厳しい、一進一退の攻防が続くのでした。その戦いもとうとう最後、このヤチを抜け、最終チェックに飛び込めば優勝、勝負の瞬間がやってきました。その運命のヤチへ先に入ってきたのは…私め河津。優勝おめでとう！自分で自分を褒めて…と思いまして。まさかの激スタック。「マジそこでスタンク？」と、ロッシが横を無事通過し、最終チェックを受けたのでした。ロッシ、優勝おめでとう！

しかししかし、どんでん返しはまだまだ続きます。レース後のリザルトには、一時停止区間のペナルティが追加され、なんと周回数的に1位#7ロッシ高橋選手、3位#2浦田智揮選手、4位#34中野マサル選手であったのは上位障壁ライダーが、入賞圏外へ脱落となつたのでした。以下、最終的なリザルトです。優勝は、結局タナボタで#5KTM300Xcw私め「落ち武者」河津。2位、実力急上昇中#3フサベルte250シミー大西選手。3位、やはり安定した走りが光りました#1KTM250「GERO師匠」金子選手。4位、今一番勢いのある若手代表、#35yz250f熊本悠太。5位トップライダーの意地をみせました#9ktm350excf「IAカズト」矢野カズト選手、という結果となりました。なお入賞は、10位まで。肩を落としながらも「ルールはルールですから」と大人な発言のロッシ選手。しかしその瞳には燃えさかる炎が…、その気持ちで来年もハジケて下さいよ。レース後、カントクのトランボに集まつた、JNCCトップライダーの皆様。「一度もコケないつもりでスタートして、直後から何度投げただろう」「ものすごい沢が続くので、ミスコースしたのかと思ったら、普通にコース上だった」「あの石豊、顔ケ岳とは全然違う」。最大級の賞賛、ありがとうございます。皆様、これに懲りずに、次回も参加お願い致しますよ。そう、最低でもムースはおやめ下さい。こちら側の世界では、厳しさがますますから。かくして、国内最大級のGEROの祭典が閉幕しました。コース難易度はかなりのものでしたが、ゲロゲロクラスでは特に目立った渋滞もなく、皆さんどうにかして周回を続けていました。ライダーの技術も年々向上してきているのではないかでしょうか。それに伴い、コースも年々難易度が上がるという相乗効果。いいですね！来年も更なる「挑戦的コース」期待してますよ。以上G-NET JAPANでした。



G-NET JAPAN 2013 Round-5

# ED SPESIAL

ロード名 四国エンデューロスペシャル  
ロ日時 平成25年1月11日  
ロ場所 徳島県美馬モーターランド  
ロ主催 キントン



こんな「タイヤ祭り」じゃない！ タイヤ地獄だ！



そうです、これが四国、これがスペシャル。



ギャラリーも気合い入ります

すみません、何の大会ですか？



「巣の森」ごちそうさんでした！



誰か、抑えて、抑えて。



いやいや、そこまで求めてないから

## ◆初登場にして、ハイレベルな大会

四国。そのイメージとして、SSERを代表とするダイナミックな林道レースシーン。西日本最高峰、石鎚山を中心に険しく延びる四国山脈。標高差のある大きな山々で繰り広げられる。この一般的な林道大団。そんな場所でGEROの付け入る隙なんて、全くありませんよ。

しかし、その隙を広げてくれたのが、今回の主催者キントン様辺さん。「うちも激しいの、やってますよ」とこの甘い言葉に誘われて、やってきました四国エンデューロ「スペシャル」に。なぜスペシャルかって？ それはこのレースが、四国を舞台に年5回開催されているサーキットEDシリーズの最終スペシャル戦、だからです。え？ もう一度確認しますよ。いつもはサーキットEDやってるんですね。しかし最終戦だけは、何故か超GERO？ なぜに？ ？。その理由は…最終戦だけが「キントン」さん担当だから、だそうです…。全く意味不明ですが、G-NET JAPAN最終戦という大命を背負った、色んな意味での最終戦。スペシャルな大会ということです。さあ始まりますよ、最終ランキングを決定づける、運命のゴングが。

## ◆シワシワいけよ

続きまして、コースレイアウトを説明します。一応MXコースをベースとしてはいますが、オンコースを走るのはホンの一部。ほとんどは、コースを横切って横の壁の登ったり、突然コース脇の森に入り、ウズの段々

を登るという、GEROのセオリーに乗っ取った、奇々怪々な取り回しとなっています。

スペシャルで有名なセクションが「巣の森」。スタート直後に現れるウズヒルです。一見簡単そうですが、スタート直後の大混亂に突入すると、至る所で蒸氣を吹くマシンを押し上げる姿が…。その錯乱シーンの数々が動画として、毎回UPされています。

そんな気持ちを見透かしたように、今年のテーマは「シワシワいけよ」。阿波弁で「あせらすいけよ」。この看板が、コースの至る所に設置されました。看板どおり、どんなセクションでも、焦らずシワシワいかないといけませんね。っていう訳にはいかないでしょう。GEROレースなんですか？ そして、ピット付近エリアに設置された、明らかに見せ場的なセクション群。チェック前に設置された奈落のジェットコースター「激下り」。これでもか！ と言わんばかりに設置された巨大タイヤ「うずしお」。これを見ただけで頭の中は炭酸状態、超シワシワです。

そんな選手心を知つてからはずか、無情にもスタートフラッグが振り下ろされます。直後の「巣の森」。そこは戦場さながら、既に白煙が立ち込め、タイヤが空転する高い回転音が幾重にも響きわたっていました。これは、レースの主導権を握る大チャンス、上位を狙う選手は張り切って走り抜けます。



夢に出てきそうな、タイヤ、タイヤ、タイヤ、タイヤ…



教科書のような芸術的フォーム、優勝のロッシ高橋選手



鳴戸の「うずしお」に飲み込まれるような…ハマリ方



立て、立つんだトコ



押せ！ 押せ！

あ…その角度は手遅れ



うわ、濃い…

## 【リザルト】上位6名

|           |                |                        |
|-----------|----------------|------------------------|
| <b>優勝</b> | <b>ロッシ高橋 博</b> | <b>ハスクTE250 エンショイズ</b> |
| 2位        | 藤田 貴敏          | christini              |
| 3位        | 河津 浩二          | KTM300                 |
| 4位        | 熊本 悠太          | YZ250F                 |
| 5位        | 松野 孝天          | X-RIDE300              |
| 6位        | 中野 誠也          | CRF280R                |

疾風怒濤＆九州男塾  
G-NET JAPAN トリフルコージ  
バイカースペア  
葛城組  
葛城組高石二輪レーシングJERRYS



「しづしづいkeyo～」

四国のテーマでした。

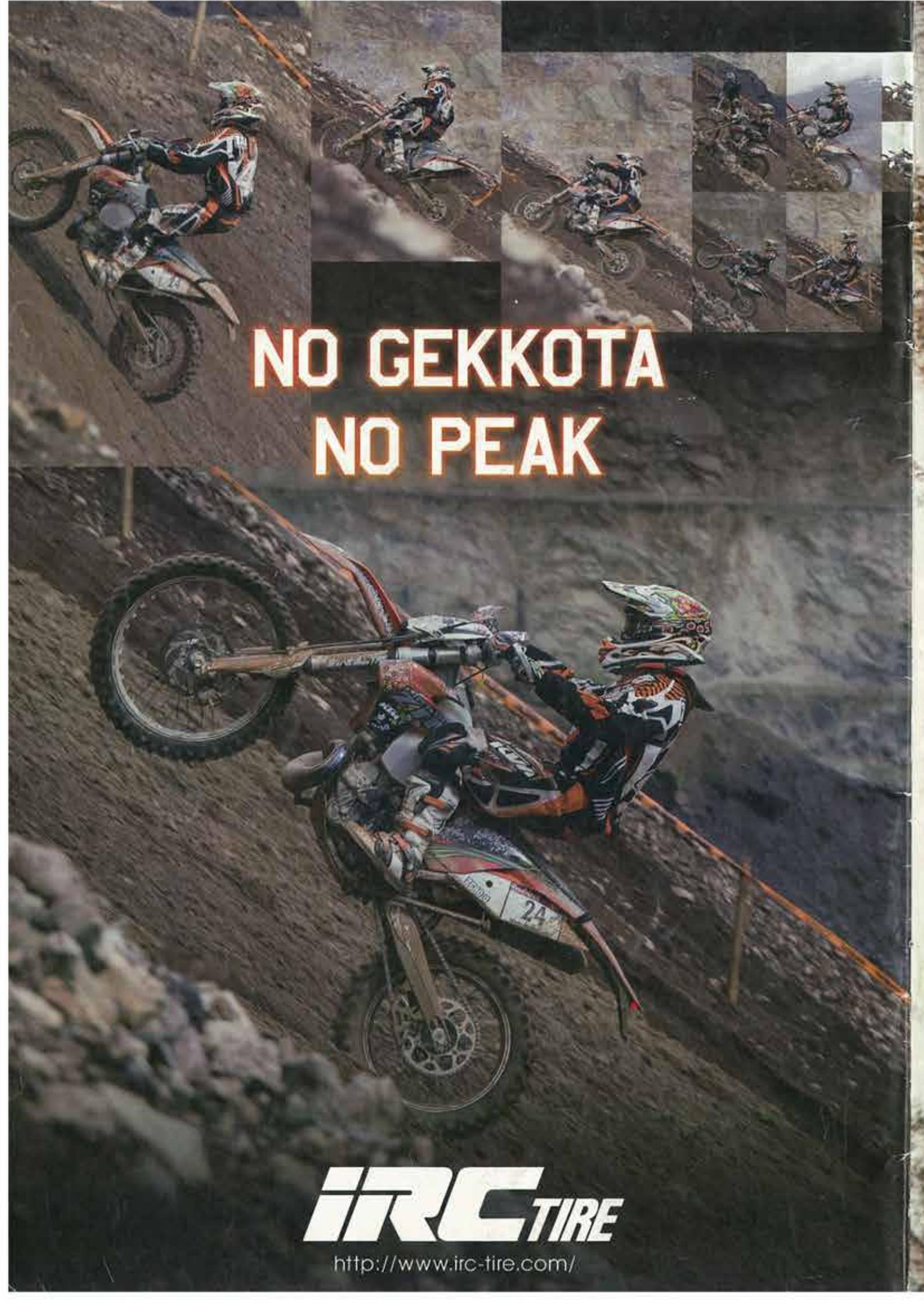
ルTE300ジミニ大西、#22CRF中野マサル。#39GasECごっちゃん…。  
抜いて抜かれてひっくり返って大騒ぎ、でしたが、最終的に3位へ躍り出たのは、次世代ライダー#41YZ250F熊本悠太。若手のホープが3位に食い込むのか…しかし世代交代はまだ許さない。最終周チェック直前で、来ました、またもや泥棒猫が！ そう、私め河津KTM300XCW、今回も脱兎のごとく美味しいところだけ頂きました！年の功、イコール、ズルい、ということです。

という訳で、3位#5河津、4位#41熊本悠太、5位#24松野さん、6位#2中野マサル、という結果でスペシャルな幕を閉じたのでした。ちなみに、イケメン熊本悠太は、東京方面の林道ガールから熱いラブコールを受けていましたが…。彼は妻帯者です、残念！

## ◆KING OF GERD

そして、今回の最終戦をもって、G-NET JAPAN2013シリーズチャンプ「キングオブGERO」も決定致しました。今更ですが「塾長」藤田貴敏選手、おめでとうございます。シリーズを通じて2位になった回数が5戦中4回、Cristiniで抜群の安定感を見せつけました。

G-NET JAPANでは、年間チャンピオンへ「全レースの無料招待」の権利を贈呈しています。これは、他シリーズ戦にないG-NET独自のライダーサポートです。頂点に立つライダーは、それだけの大きな努力を費やしているのです。そんなライダーに少しでも還元したい、そして逆にライダーがシリーズ戦を盛り上げる。この形こそがG-NET JAPANの理念です。「レースの主役は、ライダー」、そう今年もレースの主役はあなたです。人一倍派手な走り（投げでも、可）で、今年もいっぱい目立ちましょう、以上G-NET JAPANでした。



NO GEKKOTA  
NO PEAK

**IRC** TIRE

<http://www irc-tire.com/>